

## 4000万人の頭痛

90

## 頭痛にまつわる都市伝説

シリーズ最終回「慢性頭痛は安心？」

文 清水俊彦

text by Toshiko Shimizu

今回のシリーズもいよいよ最終回となりましたが、今回は、私の長年の研究結果の総括ともいえる結論についてお話ししたいと思います。

一般的に片頭痛などの一次性頭痛（慢性頭痛）は、それ自体は生命予後に支障をきたさない、簡単に述べると、命にかかわらないというのが常識なのですが、あらゆる意味合いから決して侮ってはいけません。特に重症の片頭痛に悩む方は注意が必要です。片頭痛が重症化する原因として、甲状腺疾患や高血圧もしくは一番厄介な神経親和性のある帯状疱疹ウイルスの再活性化などが増悪因子として関与することが多いからです。

特にこの帯状疱疹ウイルスは頭部の三叉神経や後頭神経の元である神経節内に潜在し、体の免疫力の低下に伴い再活性化して神経を刺激する結果、頭痛を増悪させることが多いのです。さらにこのウイルスは唯一、脳血管内で増殖することが可能なウイルスであり、脳血管を損傷する可能性が高く、脳卒中との関連性も論じられています。実際、台湾の研究者から頭部に帯状疱疹を発症してから一年以内に高率に脳卒中を発症しやすいことが報告されています。顕在化した場合には帯状疱疹として皮膚に出現しますが、顕在化

せず、頭部の三叉神経節内のみで再活性化して、皮疹として出現せずに、頭部神経痛や片頭痛の増悪、もしくは群発頭痛として表現されてしまうことも多いのです。

さらに体の頭部以外の場所、例えば手足や胸部、もしくは腹部に帯状疱疹が出現したことがある方も要注意です。なぜなら体の各部の神経節はすべて繋がっており、その一部の神経節で再活性化するということは、すべての神経節に帯状疱疹ウイルスが潜在していると考えてよいのです。片頭痛もちの患者さんが頭部以外の場所の帯状疱疹に罹患した際に、片頭痛が急激に悪化する、また理由もなく片頭痛が悪化した直後に体に帯状疱疹が出現することが、臨床上市しばしば経験されます。これは一部の神経節内で再活性化した帯状疱疹ウイルスが、連動している頭部の三叉神経節内に潜在しているウイルスに情報を送っているためと考えられます。従って、頭痛もちに限らず、帯状疱疹に罹患した経験のある方は、頭部の神経節内にも帯状疱疹ウイルスが潜在しており、その再活性化が将来、脳血管に損傷を起こし、脳血管解離によるクモ膜下出血などの脳卒中を突然きたす可能性が高いといえるでしょう。

このような危険性を唯一回避する手

段として水痘ワクチンを接種し、再度、帯状疱疹ウイルスに対する免疫力を高めることが推奨されます。医療の進んでいる米国では、医療機関を受診せずとも薬局でワクチン接種が可能ですが、本邦でも近い将来、同様になることを願ってやみません。

— 完 —

## Profile

日本脳神経外科学会認定医、日本頭痛学会監事を歴任。日本頭痛学会認定専門医。東京女子医科大学病院脳神経センター頭痛外来客員教授、獨協医科大学神経内科学講座臨床准教授、一般社団法人グリーンケアパートナー理事。

ほかに、汐留シティセンターセントラルクリニック、阿見第一クリニック、小山すぎの木クリニック、マミーズクリニック、伊豆大島医療センターの頭痛外来を担当。

昭和61年3月日本医科大学卒業。学会活動をはじめ、NHK「きょうの健康」「クローズアップ現代」など、テレビ出演も多い。「頭痛女子のトリセツ」（マガジンハウス）をはじめ、頭痛関連の著書多数。



新刊「マンガでわかる頭痛・めまい・耳鳴りの治し方」  
監修/清水俊彦 推薦/佐渡島庸平  
新紀元社 (1,080円(税込))販売中。